

暴行動画の投稿・拡散とSNS炎上： 教職員が知っておくべき仕組みと留意点

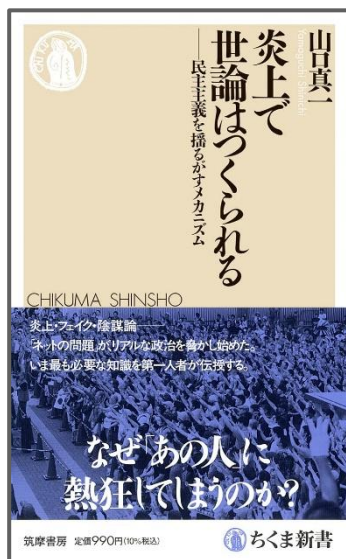
山口 真一 博士（経済学）

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター教授



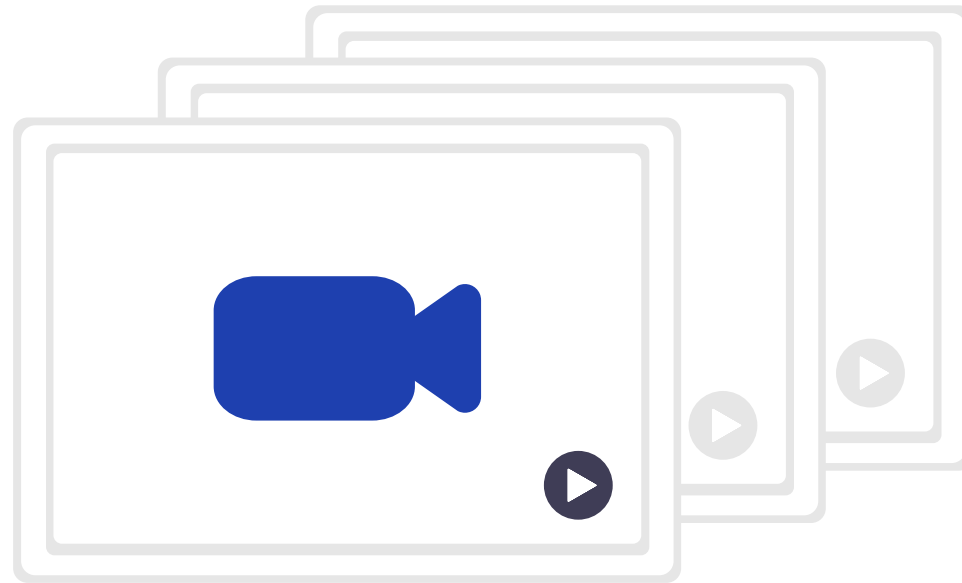
国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 教授

- ・ 内閣府「AI戦略会議」 構成員
- ・ 内閣府「AI戦略専門調査会」 構成員
- ・ 内閣府「人間力向上支援検討ワーキンググループ」 構成員
- ・ 総務省「デジタル空間における情報流通の諸課題への対処に関する検討会」 構成員
- ・ 総務省「青少年のICT活用のためのリテラシー向上に関するワーキンググループ」 構成員
- ・ 総務省「ICT リテラシー習熟レベルの測定にかかる調査等の請負事業」 スーパーバイザー
- ・ 文部科学省「情報モラル教育推進事業の検討委員会」 構成員
- ・ 厚生労働省「年金広報検討会」 構成員
- ・ 公正取引委員会「独占禁止政策協力委員」 委員
- ・ こども家庭庁「青少年のインターネット利用環境整備に向けた民間事業者の取組等検討委員会」 委員
- ・ 東京都「デジタル広報フェロー」
- ・ 千葉県「千葉県人権施策基本指針検討会議」 委員
- ・ 日本中央競馬会（JRA）「経営企画委員会」 委員
- ・ 早稲田大学ビジネススクール 兼任講師
- ・ 中央大学国際情報学部・文学部 兼任講師
- ・ 東洋英和女学院大学国際社会学部 兼任講師
- ・ 慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート 共同研究員
- ・ 科学技術・学術政策研究所（NISTEP） 専門調査員
- ・ NEDO・富士通「経済安全保障重要技術育成プログラム／偽情報分析に係る技術の開発／偽情報の検知・評価・システム化に関する研究開発」有識者会議 委員
- ・ シエンプレ株式会社 顧問
- ・ Google Japan「Japan Cybersecurity Initiative 有識者会議」 委員
- ・ 日本リスクコミュニケーション協会 理事
- ・ 株式会社エコノミクスデザイン シニアエコノミスト
- ・ 日本経済新聞Think!エキスパート
- ・ NewsPicksプロピッカー
- ・ Polimill株式会社 アドバイザー
- ・ クリエイターエコノミー協会 アドバイザー
- ・ LINEヤフー株式会社「Yahoo!ニュース」オーサー・公式コメンテーター
- ・ ソフトバンク株式会社「AI倫理委員会」 社外委員
- ・ 株式会社エニトグループ アドバイザリーボードメンバー
- ・ TikTok Pte.Ltd.「TikTok APAC Safety Advisory Council」 委員
- ・ 日本テレビ「日本テレビ放送番組審議会」 委員
- ・ 民放連研究所「メディア・コンテンツの将来に関する研究会」 フェロー
- ・ 情報通信学会事業企画委員会 委員／組織科学編集委員会 委員・シニアエディター／社会情報学会研究活動委員会 委員



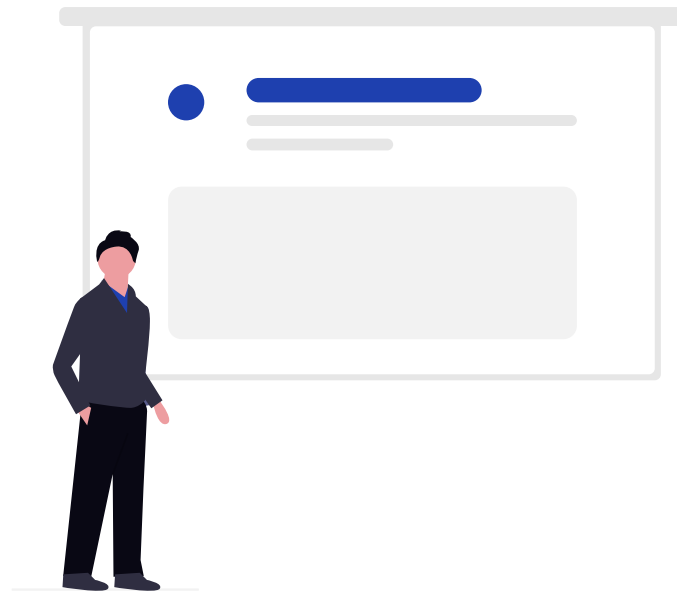
暴行動画の投稿・拡散をめぐる現状

- 近年、児童生徒が関係する暴行動画の投稿・拡散が相次いでいる
- SNS上でのこのような動画の拡散は、強い注目を集めやすい
- 深刻な二次被害や炎上につながることも多い

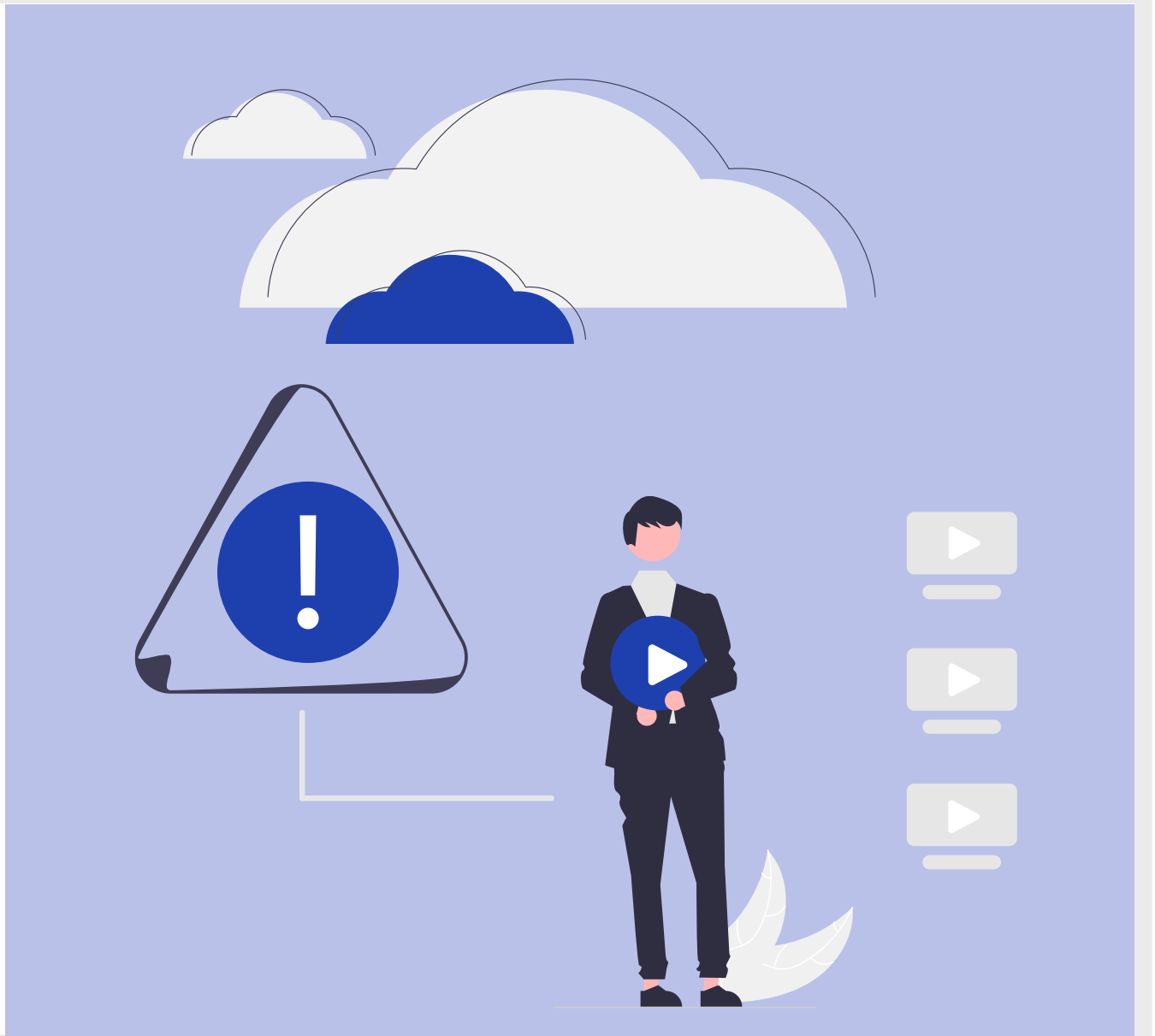


本研修のねらい

1. 暴行動画が拡散・炎上する仕組みを整理する
2. 未成年の個人情報・プライバシー侵害や投稿・拡散リスクを理解する
3. 教師としての留意点（初動・伝え方）を確認する

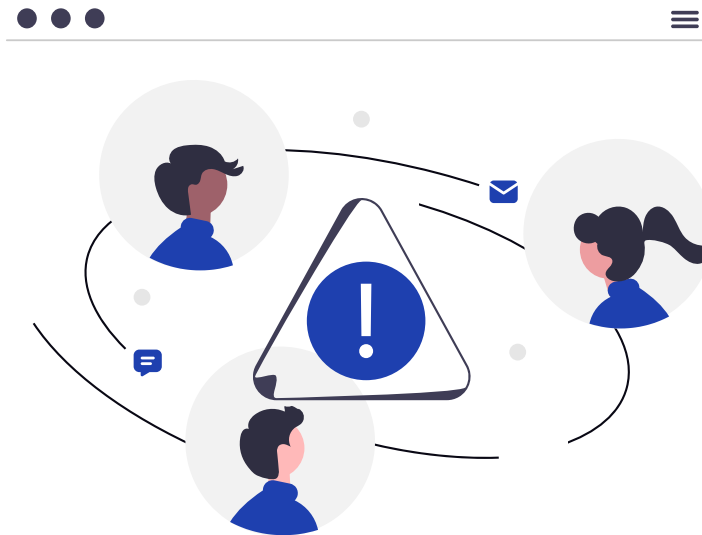


暴行動画拡散の メカニズムとリスク



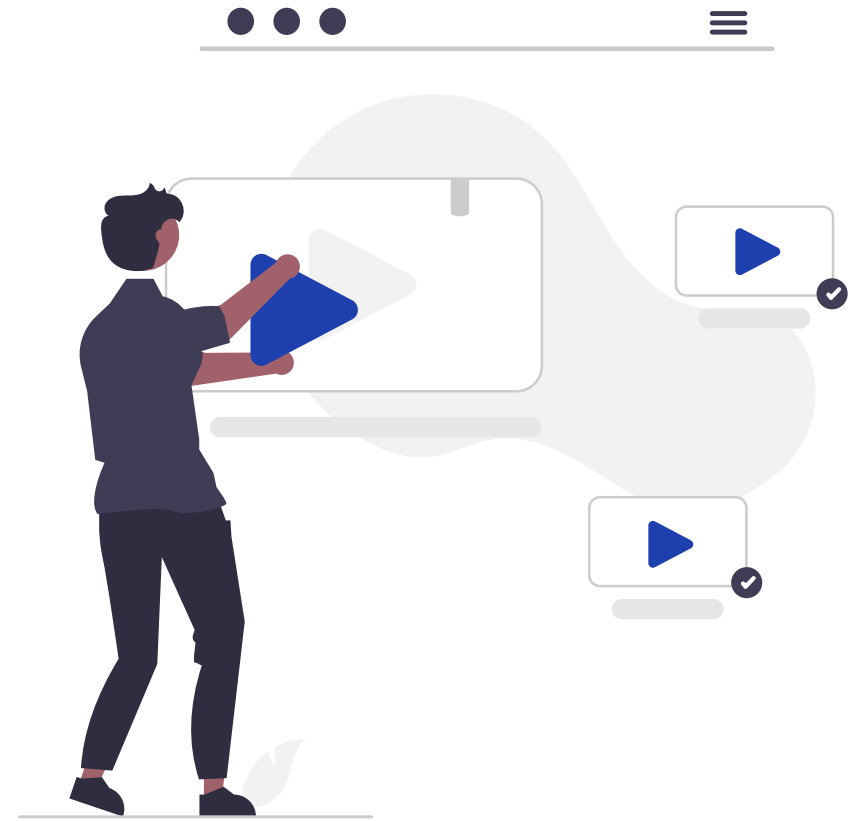
SNS「告発」の功罪

- いじめや暴力は決して許されるものではない
- 動画という強い情報が出てくると、事態が制御不能になる可能性も



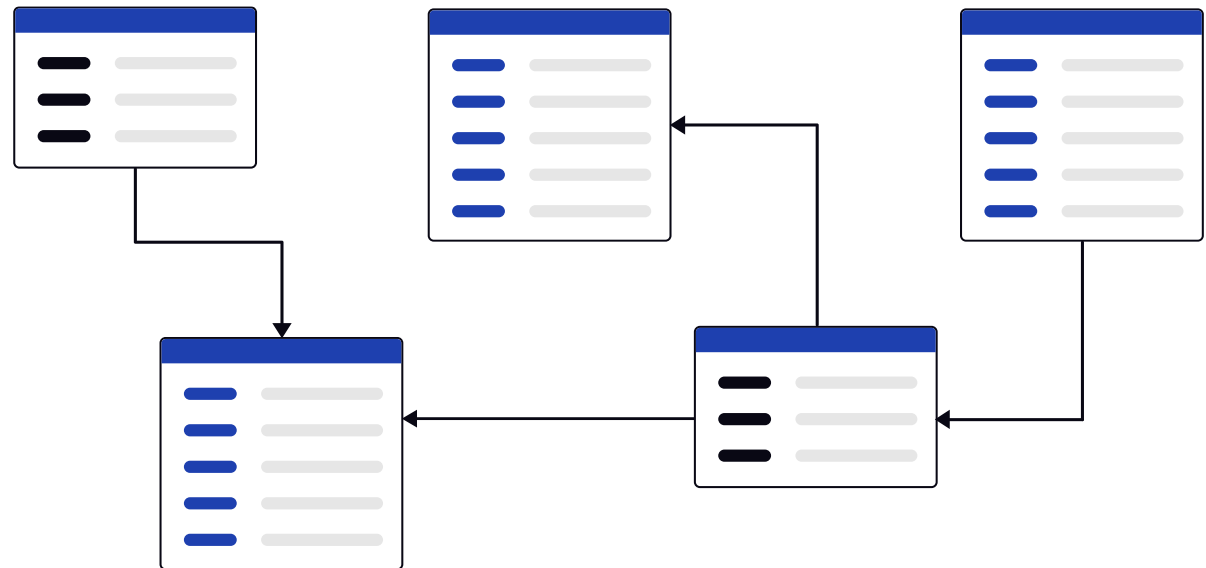
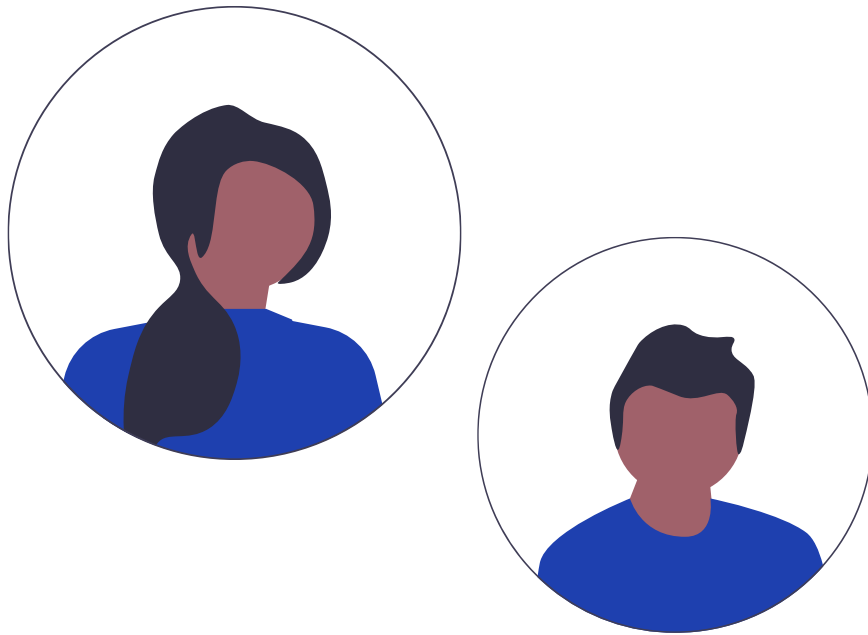
問題点①：動画投稿の大きな特徴

- 動画は一度投稿されると完全に回収することが難しい
- 切り取られ、保存され、再投稿され続ける可能性がある
- 意図が不明なまま拡散が進むこと自体がリスクになる



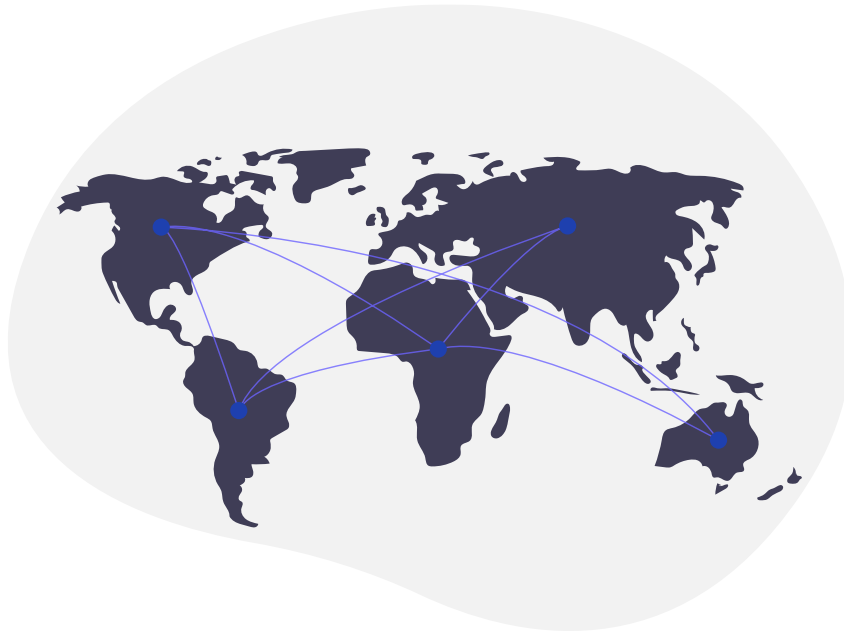
問題点②：投稿・拡散のリスク

- 内容や方法によっては、名誉毀損・プライバシー侵害になり得る
- 被害者・加害者の顔が分かる動画は、当事者を長く傷つける



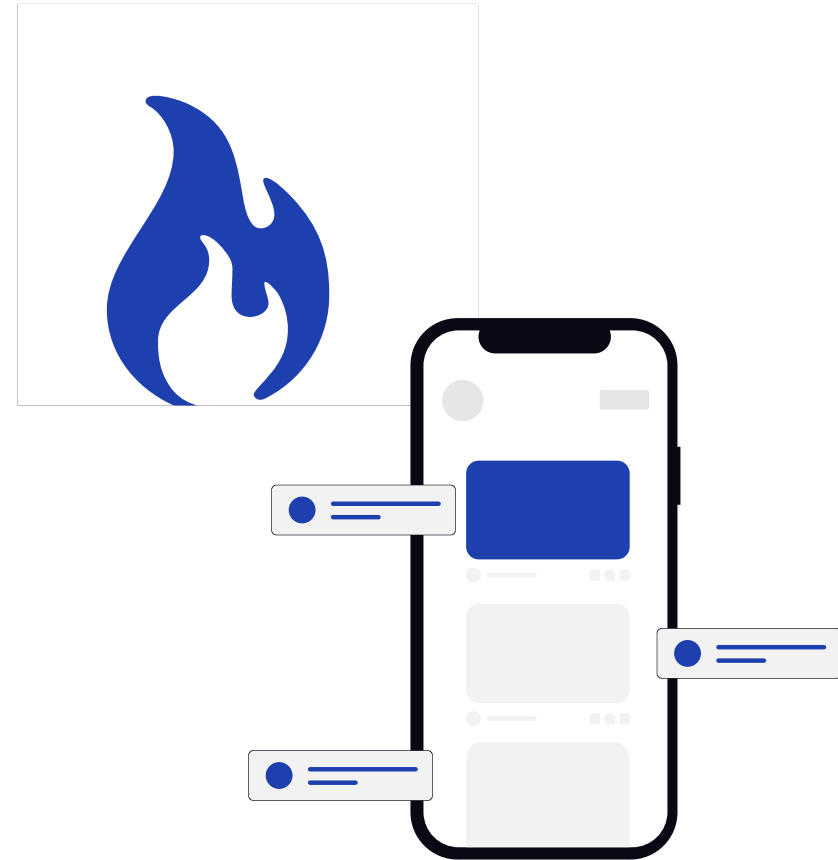
問題点③：未成年の個人情報が短時間で拡散

- 顔・名前・学校名などが特定されやすい
- 誹謗中傷があふれ、手続きや配慮を経ない「過剰な制裁」になりやすい
- 将来（進学・就職等）にまで影響が及ぶ可能性がある



炎上の背景①：テーマの性質

- 「いじめ」「暴力」は強い怒りを呼びやすく、炎上しやすい
- 「個人の正義感」から、誰でもコメントや拡散に参加する可能性がある
- 感情的な反応が重なり、炎上が加速する



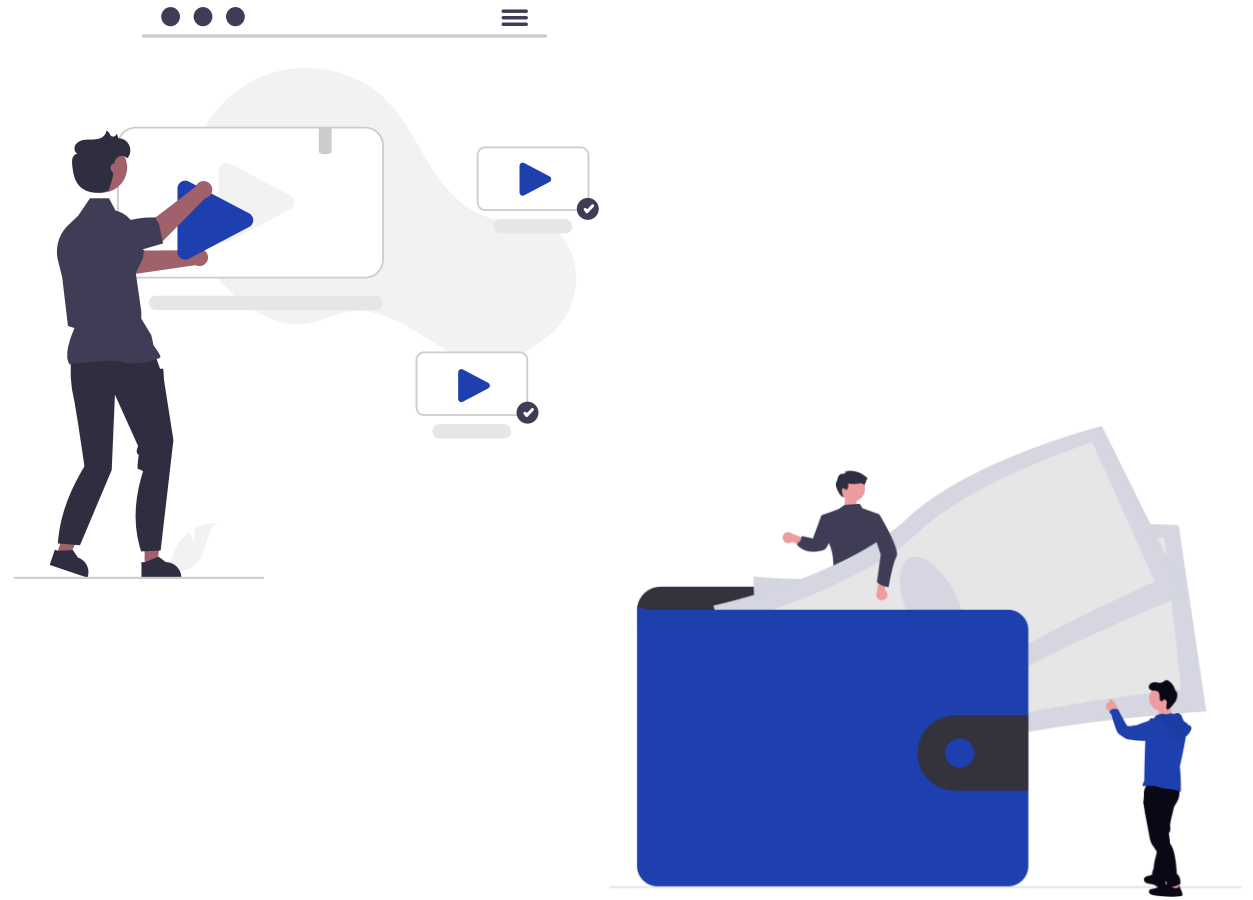
炎上の背景②：善意が加害に

- 炎上の特徴として、議論は深まらず、当事者を追い詰めることが主に
- 組織的・法的に適切な対応をすべきところで、個人の思いから過剰な私的制裁につながる



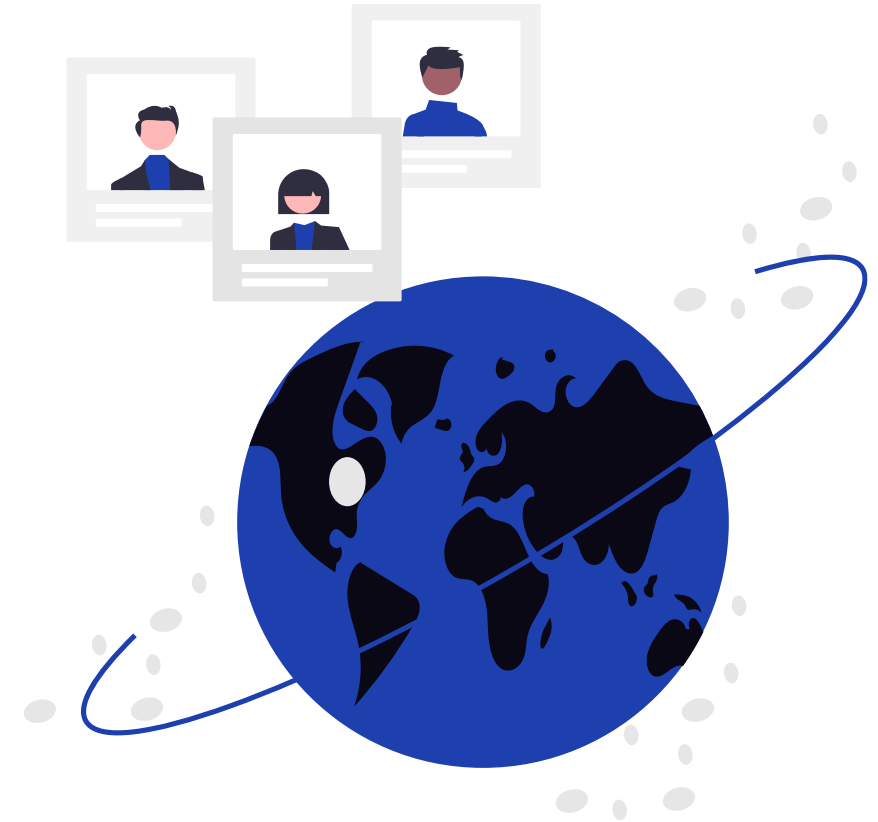
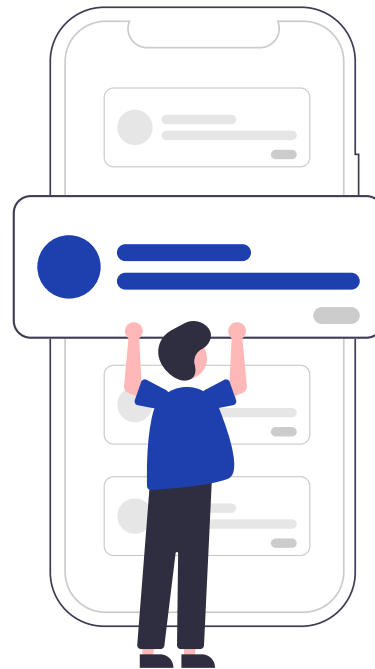
アテンション・エコノミーによる加速

- 見られる・話題になることが価値（収益）につながる社会
- 暴行動画は「注目を集めやすいコンテンツ」になりやすい
- まとめ動画・突撃などが連鎖し、問題解決から離れやすい



拡散による二次被害

- 無関係な人が誤って特定される場合があり、実際にフェイク情報の拡散が罪に問われた事例もある
- 当事者への誹謗中傷がエスカレートし、被害者も加害者も、深刻な心理的負担を負う可能性がある

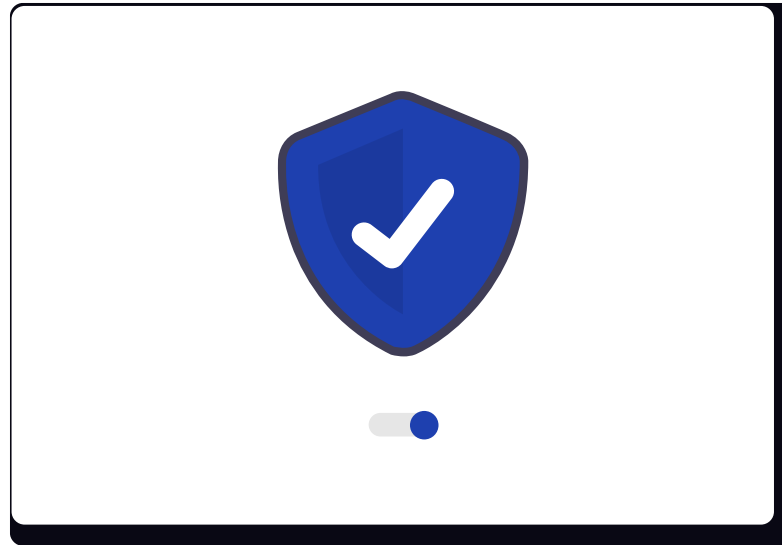


学校現場での対応と 指導のポイント



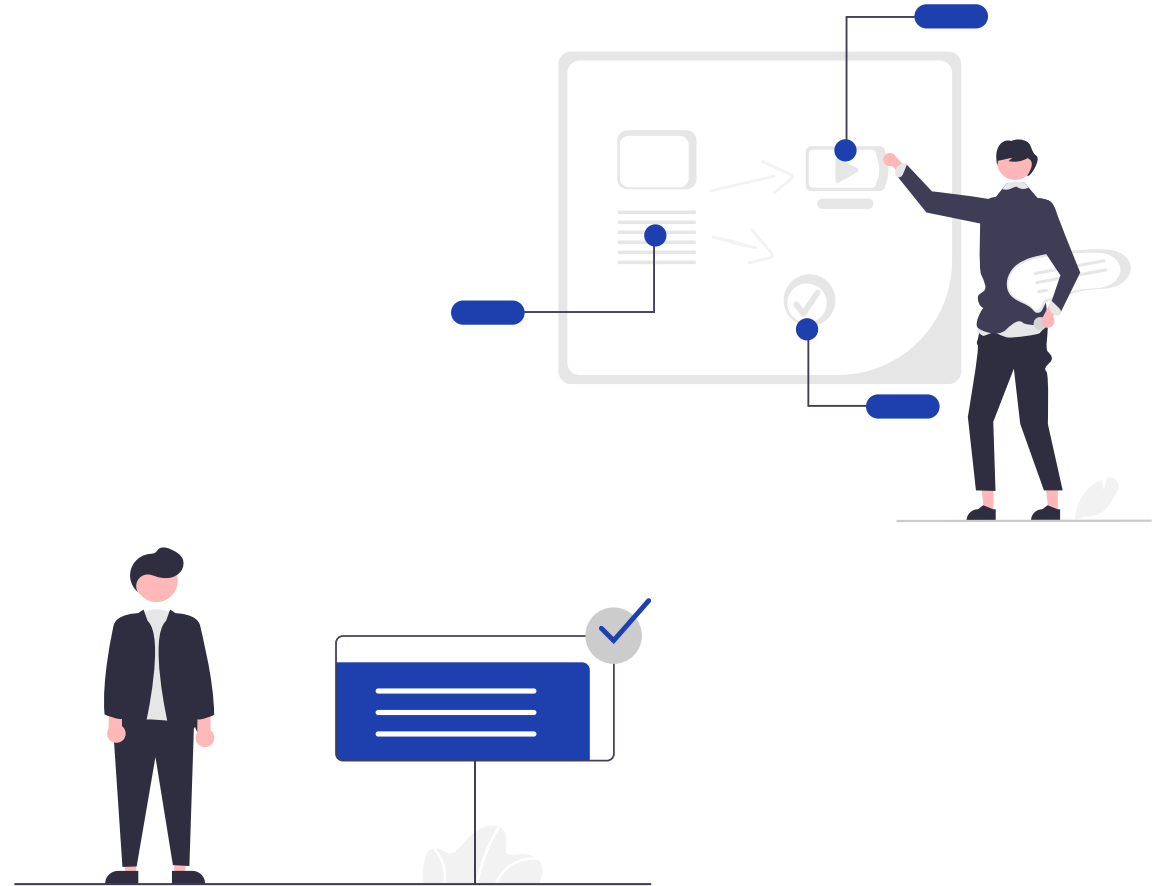
教師が知っておくべき留意点

- まずは児童生徒の安全と心のケアを最優先する
- 動画や情報を「共有しない」「見せない」を校内で徹底する
- 管理職・教育委員会等と連携し、組織として対応する



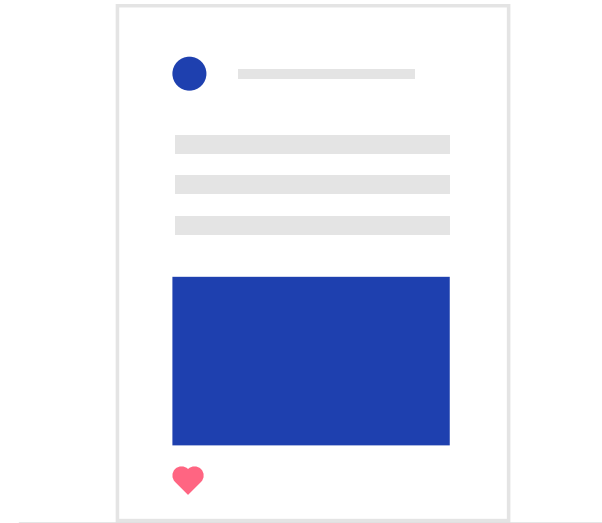
児童生徒に伝えたいこと

- SNSに投稿・拡散する前に、信頼できる大人に相談する
- 正義感からの拡散でも人を傷つけることがあり、名誉毀損やプライバシー侵害として、法律上の問題になり得る
- 一度投稿した情報は、簡単には消えない



おわりに

- SNSは遠ざけるものではなく、向き合うもの
- 仕組みを知ること、拡散による被害・加害を防ぐことができる
- 教師の関わりが、子どもたちを守る大きな力になる



ご清聴ありがとうございました

この資料の一部は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）のムーンショット型研究開発事業（JPMJMS2215）からの研究助成を受けて進めてきた研究成果をもとにしています。あらためて、関係する皆さまに感謝申し上げます。